



愛川ふれあいの村 今月の風景

2024年2月 自然のたより

今月に入り、警報級の大雪が降ったかと思えば、4月並みの暖かい日が来るなど、天気が目まぐるしく変化しています。そして、春一番が吹き荒れるのもこの時期です。

村では春を代表する植物、フデリンドウがあちらこちらで芽を出し始めました。キツツキの仲間のアオゲラの♂は枯れた樹上でタララララと縄張り宣言のドラミングに夢中です。生き物たちは春を迎える準備で大忙しです。

村も皆様を迎える工事が進みます。今少し、ご迷惑をおかけします。(高梨)



春光に映えるオオイヌノフグリ



久しぶりのホオジロ



ミミズ大好きシロハラ



早春の花ユリワサビ



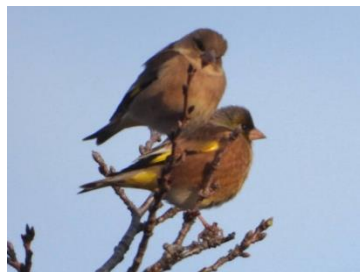
輝くサザンカ



春を待つフデリンドウ



初春に咲くオニシバリ



仲良しカワラヒワ



雪とメジロ



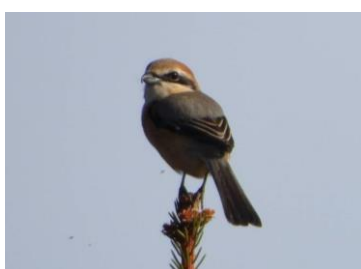
考えるアオジ



カシラダカ、のんびり



開花を待つツグミ



モズ(オス)



ドラミング中のアオゲラ



仲良しムクドリ

トピックス ★冬と生き物★

年に1度あるかないかの積雪があり、ふれあいの村は、一面真っ白の銀世界に早変わり。芝生や土の面からどんどん白くなっていきます。降っている最中は、もちろん大変ですが、止んでからも一苦勞。木々の上に降り積もった雪は重いようで、細かな枝が折れたり、人間が歩くにしても、滑ってしまったり、作業をしようにも、いつも以上に時間がかかってしまいます。

そんな、雪の上を見てみるとポツリぽつりと足跡がたくさん。こんなに冷え切った中でも、生き物たちは元気に生き延びているようです。

さて、植物たちはどうなのでしょう。寒い冬をどのように乗り切っているのか、気になってきました。冬になると朝早く葉っぱが凍りついているのを目にします。なのに、日中になると「私、凍ってなんてなかったけど」と言わんばかりに、元気になっていたりします。どうやらこれは、耐寒性といい、体内の凍結を回避したり、外側だけ凍らして、大事な中身は守ったりという植物たちの知恵が影響しているようです。これをするには、しっかりとした冬支度が大事！細胞内の糖類やアミノ酸などの含有量を変化させ、冬に向けて凍りづらい身体を作り上げていきます。そういえば冬前に、木々が葉を落とすのも、低栄養で冬を乗り切る工夫の一つです。

雪や寒さは、生き物に厳しく当たりすぎだとも思いますが、雪の地域の植物は、降り積もった雪が地面の温度低下を守ってくれて生き延びられたり、人間も雪下野菜など、冬の寒さの影響を乗りきった美味しい野菜が食べられたり。恩恵を受けているのかもしれない。(佐々木)



※蒴とは胞子の入っている部分。



（別名クチベニゴケ）は、冬の間、蒴※クの上にあつた蓋が取れるので見た目でもわかるが、葉に中肋がないことも大きな違いである。別名のクチベニゴケは、蒴の部分が赤くなり、まるで口紅のように見えることからその名がつけられたという可愛らしいゴケである。

ゴケ類は、夏の暑さや冬の寒さにじつと耐え忍びこんなにも清楚で美しい姿を見せることに感心した。(吉田)

生き物 ★メジロ★

春ですね。梅や椿の花が咲き始めました。花の蜜を求め群がる野鳥を観察できます。

梅の花と言えば「メジロ」。古くから日本画などに書かれています。体長約12センチ、身体は明るい黄緑色、目の周りの白い縁取りがとっても可愛い野鳥です。花の蜜や果汁を好み、早春の花に群がる様子が観察されます。

また、「目白押し」という言葉があります。メジロが木の枝にとまる際、お互い押し合うようにぴったりと枝に並ぶ様子が語源とされています。

お花見シーズンです。花ばかりではなく、花の影にいる可愛い野鳥たちの蜜を吸っている様子も探してみてください。

(菅原)



旬 ★はっさく★

独特のほろ苦さがあり、上品な甘さとほどよい酸味が特徴のはっさく。旧暦の8月1日になると食べられることが「八朔（はっさく）」の由来だそうです。ですが8月の初めはまだ、実が小さく食べごろではありません。実際はちょうど今の時期の1~4月が食べごろです。

はっさくにはビタミンCが多く含まれており、果実1個で成人が1日に必要なビタミンCを摂取出来ます。また、保湿や肌荒れ、乾燥肌の対策に有効であることが知られており、この時期にピッタリです。

旬のものを食べると、その季節をより身近に感じることができ、身も心も充実できると思います。(小熊)



来月の見どころ

樹幹に生えるクチベニゴケ

風はまだまだ冷たいが、初春の柔らかな日差しの中で、ゴケ類が元氣を取り戻してきた。一雨ごとに温かさが増してきて気持ちも温かくなる。

樹幹着生のゴケ類は、その地域の環境指標植物となるので、ぜひ注目して調査すると面白い結果が待っている。

乾燥している時は分りにくかったこの2種類のゴケが雨の日は明瞭に見分けがつき興味がわいてくる。上の写真は、タチヒダゴケ（別名コダマゴケ）で葉の中心に中肋と言って1本の葉脈のような筋が見える。下の写真はヒナノハイゴケ